

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	熊本学園大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	クマモトガクエンダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	商学部 商学科、経営学科
	担当教職員名・役職	城戸 義和・准教授、吉川 勝広・准教授、堀越 昌和・准教授、得重 仁・教授、山田 美幸・講師、教務課職員
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	37
	受入企業等数	41
	受入企業等名	熊本県庁、合志市役所、社会福祉法人恩賜財団 済生会熊本病院、株式会社熊本放送、総合企画株式会社、株式会社熊本日日新聞社、株式会社山一観光、株式会社日本旅行熊本支店、株式会社鶴屋百貨店、株式会社ベスト電器 光の森店、株式会社スズキ自販熊本、株式会社コスギ不動産、税理士法人近代経営、株式会社せいじつ会計、熊本県司法書士会、株式会社エフエム熊本、DCMダイキ東バイパス店、株式会社松栄バナホーム熊本、熊本県中小企業家同友会、株式会社肥後銀行、熊本県社会保険労務士会、NPO法人とら太の会 みのもり、株式会社ゆうプランニング、有限会社ミュージックプランニング、株式会社パーソナル・マネジメント、イオン九州株式会社 イオン大津店、株式会社九州永田、有限会社小手川写真館、井手税理士事務所、株式会社大成経営開発、株式会社地域経済センター、熊日都市圏販売株式会社、有限会社マリオネット、Management・Support株式会社、株式会社レイメイ藤井、株式会社お風呂のシンドー、株式会社マツオHDC、九州電設株式会社、熊本市男女共同参画センター はあもにい、熊本市立熊本市民病院、独立行政法人 日本貿易振興機構(ジェトロ)熊本貿易情報センター
	インターンシップの分類	8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.以外の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事務補助や訪問先への同行、窓口対応、企画書の作成等、実際に行われている業務を体験している。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	6.当該インターンシップは、選択科目として実施している。8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している。9.その他
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	当該インターンシップは、自己能力開発科目として実施している。
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	3年次を対象に、夏期休業中の原則5日間インターンシップを行う自己能力開発科目「インターンシップ」として実施している。単位認定は2単位である。将来の職業選択を念頭に、企業等での就業体験を通して自らにふさわしい仕事とはどんなものなのかを考え、同時に実社会に身を置くことで、社会人としての行動様式と実践的知識を獲得することを目指している。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている。2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている。3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている。4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている。3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	教員が自分が担当する学生の事前訪問後、インターンシップ期間中、インターンシップ期間後のいずれかあるいは全てにおいて学生に連絡を取り状況把握を行っている。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	全6回の事前学習の中で、インターンシップ受講上の注意(第1回)、インターンシップの意義・目的等の講義、受入先の調査レポート提出(第2回)、自己表現の仕方、履歴書・自己紹介書の書き方指導(第3回)、マナー講座(第4回、第5回)、ビジネス・マナー講座のまとめ(第6回)を実施している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	学生がインターンシップに関する報告書をまとめて大学に提出する。また、事後学習で各々の就業体験を報告し、インターンシップの成果や反省点等を話し合っている。

	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ終了までにおいては、教員が自分が担当する学生の事前訪問後、インターンシップ期間中、インターンシップ期間後のいずれかあるいは全てにおいて学生に連絡を取り状況把握を行っている。インターンシップ終了後においては、学生にインターンシップの日報や研修報告書の提出を求めるとともに、事後学習における就業体験報告や話し合いによって各々の学生のモニタリングに努めている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実施前には受入先の事業内容、インターンシップを通じて学びたいこと等をまとめた調査レポートの作成、実施中にはインターンシップ研修記録の作成、実施後にはインターンシップに関する報告書の作成、事後学習では各々の就業体験の報告を実行し、インターンシップの成果や反省点等について確認を行っている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間原則5日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間10日間(うちインターンシップ実施期間3日間)
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	官公庁、地元企業等で、原則5日間のインターンシップを行っている。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前に大学は受入先に学生・大学への要望等を伺い、学生は事前訪問で具体的なインターンシップの内容等について受入先担当者や打ち合わせを行っている。インターンシップ後、受入先は大学作成の評価表を用いて学生に対する評価を行い、教員は受入先を訪問し、担当者にインターンシップの様子について話を伺っている。また、代表学生の報告書をまとめた冊子を受入先に送付している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://www.kumagaku.ac.jp/files/document/daigaku/public/disclosure/syllabus/SyllabusViewerBaseView.html
問い合わせ先	大学等名	熊本学園大学
	担当部署名	教務課
	担当者役職名	課長補佐
	担当者氏名	法川 ゆかり
	電話番号	096-364-7186
	メールアドレス	jnews@kumagaku.ac.jp